

兼岩伝一のこと

(一財) 都市みらい推進機構 総括主席研究員 川上 征雄

今年には都市計画法が制定された 1919 (大正 8) 年から 100 周年にあたり、6 月 19 日には盛大な記念式典が東京国際フォーラムで挙行された。同時に現代の都市計画の功労者が多数表彰された。旧都市計画法の制定においては、それまで耕地整理の援用で農地の整備と併せた宅地整備として実施されてきた「区画整理」を法律の実施手段のひとつとして定めた。そして法制定の 4 年後の 1923 (大正 12) 年に起きた関東大震災の復興事業では区画整理事業が大きな役割を担ったのである。東京市内では市域面積の 44% に相当する 3,465ha を焼失し、死者・行方不明者数 6 万 9 千人に達する震災からの復興に当たり土地区画整理事業が多く活用された。

その区画整理を「都市計画の母」だと造語したのは兼岩伝一である。兼岩は内務省技師であり、区画整理の実践としては、1928 (昭和 3) 年から愛知県において東京帝国大学土木工学科の 6 年先輩になる石川栄耀の下で携わっている。その後兼岩は 1935 (昭和 10) 年には土地区画整理研究会を設立して、その普及に努めた。同研究会発行の機関誌『区画整理』創刊号に掲載したのが件の「土地区画整理は都市計画の母」の言葉である。愛知県の後、三重県、東京府、埼玉県において勤務するなかで都市計画のみならず河川事業や道路事業などにも従事した。

日本の国土が焦土化した第二次大戦敗戦後の復興事業でも土地区画整理事業が活用されるものとなった。戦災の被害が特に激しかった 115 都市を対象に約 65,000ha を土地区画整理事業で復興する内容の「戦災復興計画基本方針」が 1945 (昭和 20) 年に閣議決定され、実施されたのである。

終戦後に内務本省国土局に異動してきた兼岩は、戦前から続いてきた官庁技術者の処遇改善を促す技術者運動に参画した。その運動は 1946 (昭和 21) 年に、全国の土木、建築、都市計画の技術者 1 万 5 千人の会員を擁して設立された全日本建設技術協会 (全建) を組織するまでになり、兼岩は初代委員長を務めることになるのである。わが国の官庁における技術者の待遇は明治初期において「お雇い外国人」による技術導入に際して、高給で遇したが政府内での地位を高くすることはなかったことに準じた。爾来、官庁技術者への冷遇の慣行は連綿と続いていた。これの改善を目指したのが技術者運動である。それを目的に設立された全建は「建設省設置促進委員会」を組織し、国会に対し技術者が活躍できる建設省の設置を請願していた。

折しも敗戦後に進駐してきた連合軍の総司令部 (GHQ) は、日本国憲法を制定させることを始めとしてあらゆる領域に手を入れた。治安維持法違反で収監されていた共産党員を解放し、治安維持法を所管し特別高等警察を擁していた内務省をやがて廃止することになる。

兼岩は全建の動員力を背景にその代表として、1947 (昭和 22) 年の第 1 回参議院議員選挙に無所属で立候補、当選した。建設省設置という全建の悲願は、くしくもこの参院選直後に発せられた内

務省解体のGHQ指令、また片山社会党内閣の成立を契機として建設院が1948（昭和23）年に創設され、次いで建設省へと昇格したのであった。法科出身の事務官が各省事務次官を占めることが常態であった中央省庁において、土木技官の岩沢忠恭が初代建設事務次官に就任するという画期であった。この一連の出来事に兼岩の寄与があったことは論を俟たない。

一方で出所した日本共産党の徳田球一は、1949（昭和24）年に『利根川水系の総合改革』を著していた。その背景には、荒廃した国土を襲った1947（昭和22）年のカスリーン台風が利根川の決壊をもたらすなど、大水害を生じさせていたことがある。徳田の着想は、江戸時代に実施した利根川の河道を江戸の町を迂回し銚子に振り替えた土木事業の利根川東遷事業が、流域に霞ヶ浦、北浦、印旛沼、手賀沼など多くの湖沼を生じさせ、このことが大きな水害をもたらした原因だとするものである。利根川の流路を東京湾に注ぐように復帰させることを提案している。つまりは、利根川上流で多摩川への水路を開き、また利根川と荒川も結んで、いずれの流水も東京湾に流すことなどである。鬼怒川、小貝川、手賀沼、印旛沼の水を東京湾に注ぐよう転換する一方で、霞ヶ浦・北浦の水を九十九里浜に沿って導水して外房から太平洋に流すという構想である。これにより霞ヶ浦、北浦、印旛沼、手賀沼、渡良瀬遊水池などをすべて干拓して農地にするなどの主張であった。この着想に心酔した兼岩は、1949（昭和24）年に日本共産党に入党することになる。同時に全建の委員長を辞するとともに脱会したのであった。その後建設省は、国土省や内政省といった再編案に翻弄されることになるのである。

都市計画の過去の功労者を表彰するならば、石川栄耀などとともに名を連ねていたかもしれない兼岩伝一に思いを致し、建設行政をめぐる兼岩の活動を如上に追想してみた。